



職人
山本
七十一番上

特 別
~4
8053
1



職人歌合畫本
七十一番之上

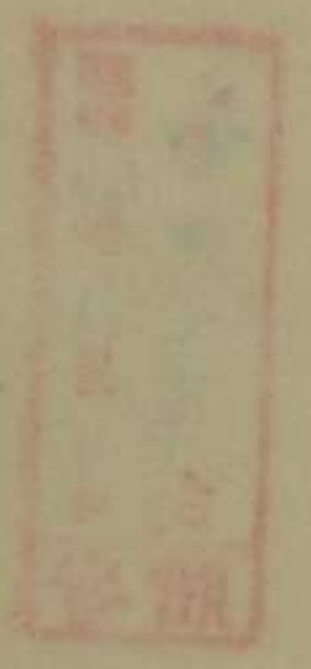


八4
8053
1

伴信友
夜合
細野
要齋
田花

職人歌合畫本
七十一番之上

一



職人歌合畫本 七十一番之上

一

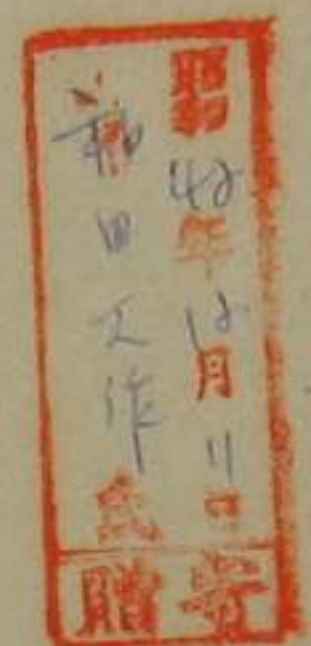
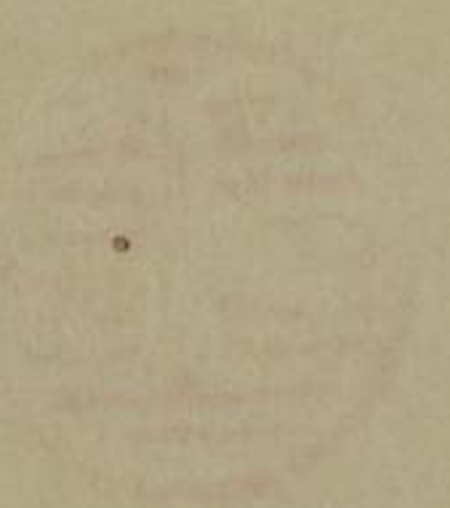


職人歌合
七十一番
之上

Handwritten text in the top left corner, possibly a date or reference number.

Main body of handwritten text in cursive script, spanning across the middle of the page.

Vertical handwritten text on the right side of the page, possibly a signature or title.





ちへり さつり	かへぬ いへき	かき かき	いぬ つり
山人 浦人	ふり 草かり	ふり 白い物	輪り いへき
ちへり さつり	かへぬ いへき	かき かき	いぬ つり
山人 浦人	ふり 草かり	ふり 白い物	輪り いへき
ちへり さつり	かへぬ いへき	かき かき	いぬ つり
山人 浦人	ふり 草かり	ふり 白い物	輪り いへき

天地ひらけ 時さるこのくまをいふも道
 を玉ふことおけくまは道の道をさるま
 り有るやまを名つるも吾邦のまをさる
 くれハ神の道もい人のまを和れ今度
 の光ことあるまをさるまの山はま
 心をのまをさるまのまをさるまを
 た右をさるまをさるまをさるまを

此子出... 宗議... 利... 宗... 宗...

七十一為親合

題

月

燕

はんなり

我もけさ

相国寺

又女子は

若くは

ゆいん

はらわ



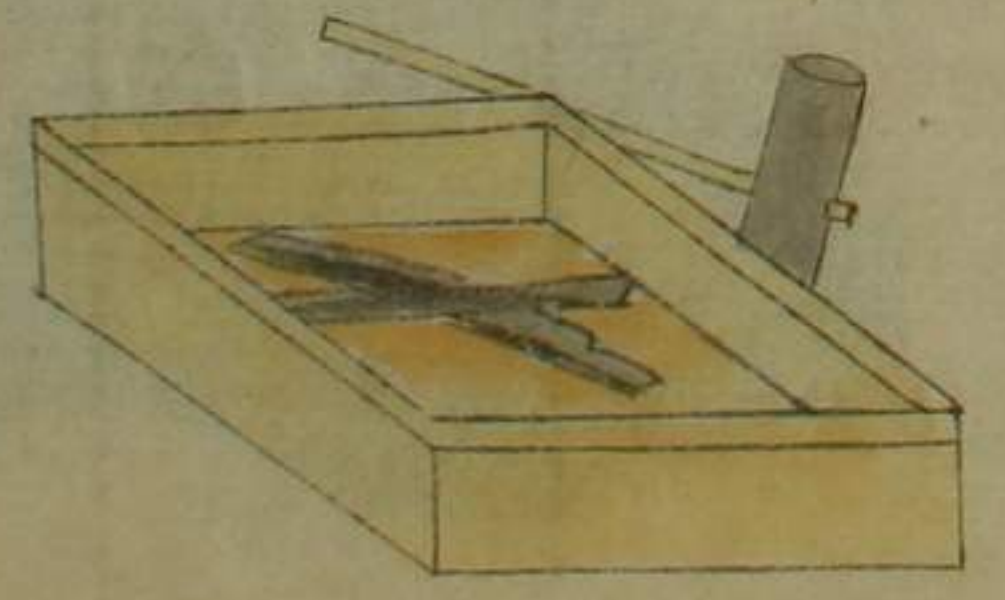
京くくとのり

くちかきを師

あはらひの大事よ

くちかき

京地







あけま
まがら
うま

あ

ほ
い
い
あ



ほ
あ
あ
あ
あ
あ

あ



きくー不世あま
おひきり

いんりん

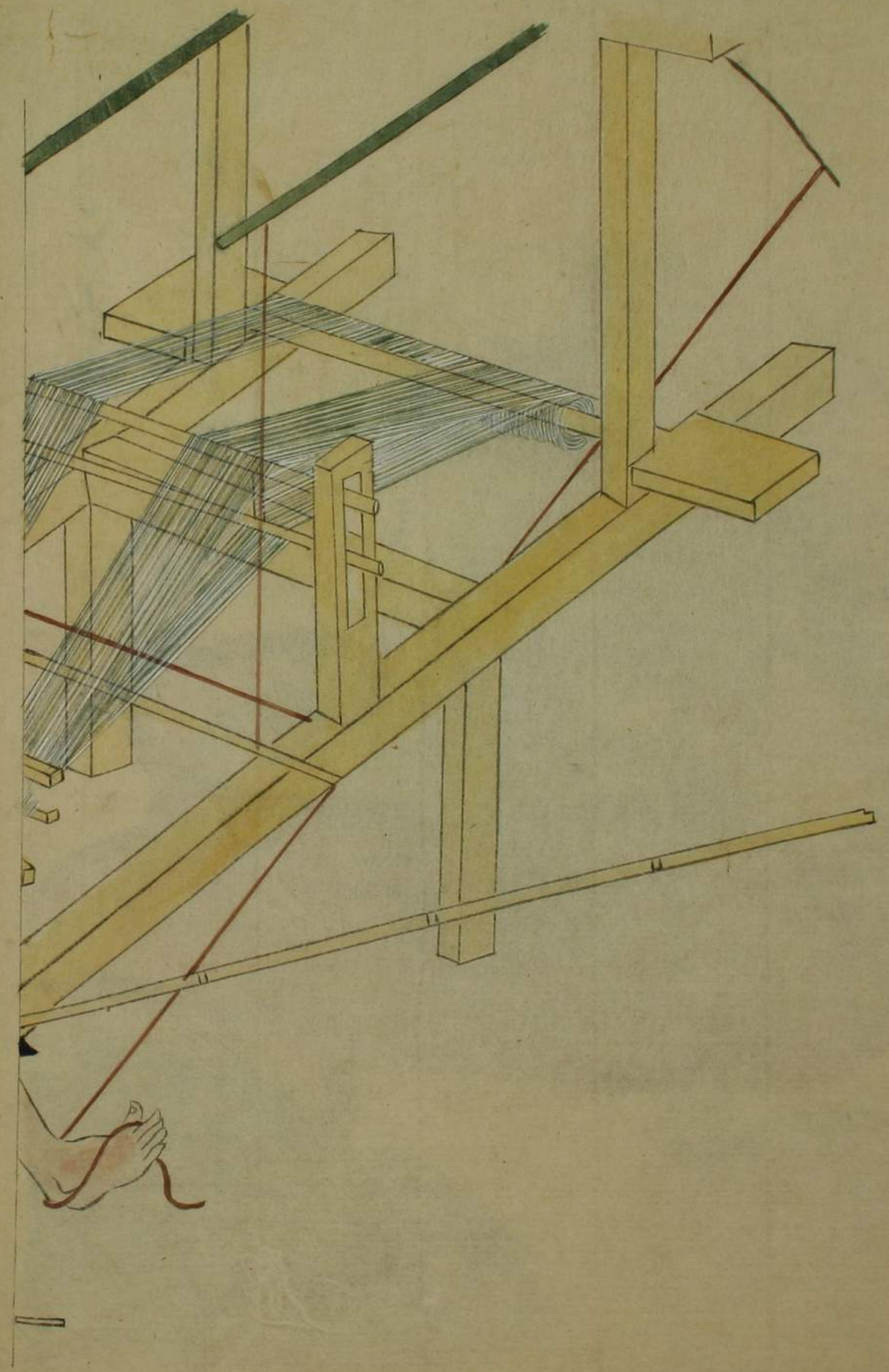


今頃
火とるへき



たのむ

あまの
こころ



ひ物

ゆきけり

こけい

たき

ふみ

あはら

くわ



車作り

ひま

ま

は

か



かへうを



さういふ
うららうを
あはらう
人あらは作らせし
はらうをゆきて
さう

先さけめせう
たのびてふうす
はらう
あて

さういふ



夕比井
うき子



あつたつた
あつたつた

伊賀貞丈主云昔士農工商共
力ナシハ云フモノヲ用テ諸用ヲ
胡粉ヲ書付ル之形扇骨ノ
如クニテ上下同シ大ナサニテ上下
ヲ糸ニテトキコレヲヘタルモノ
露寺職人尽歌合ニ油ウリ持
タルモノカナサシ之丸ノ形表裏
ニ付タル品ノ放シタル之鉄ニ作ル
モノ也

其心安穩無有情弱文殊師利是各
長七寸九分ハハハハハハハハハハハ

〇〇〇〇 妙法蓮華經具相別錄卷佳

下冊 一八半

一七下



Handwritten text in red ink at the top of the right page, likely bleed-through from the reverse side. The text is arranged in vertical columns and includes characters such as 品名 (Product Name) and 数量 (Quantity).

あめり

あめり

あめり

あめり



あめり
あめり

あめり
あめり





ひげうた

てままひら
かろま
はまひ



筆心

うのけい
毛のうら西
みえぬ
たき



なごらあ

あひかりまのあひ
てゆけさ



なごらあ
あひかりまのあひ
てゆけさ

なごらあ

かえかひ



かえかひ





漁人

舟の修理
糸の直し
糸の直し
糸の直し



山人

冬の小作
冬の小作
冬の小作
冬の小作

草刈り
ゆいん子とて
世よとてあそぶ
みまへ所よ



木こり





おひうき



おひうき
乃此んん
いそしや

白いおひうき



白いおひうき
いららもめせ
いそしや
あき
あきいん

いそごう



いそごう
いそごう
いそごう

いそごう

いそごう

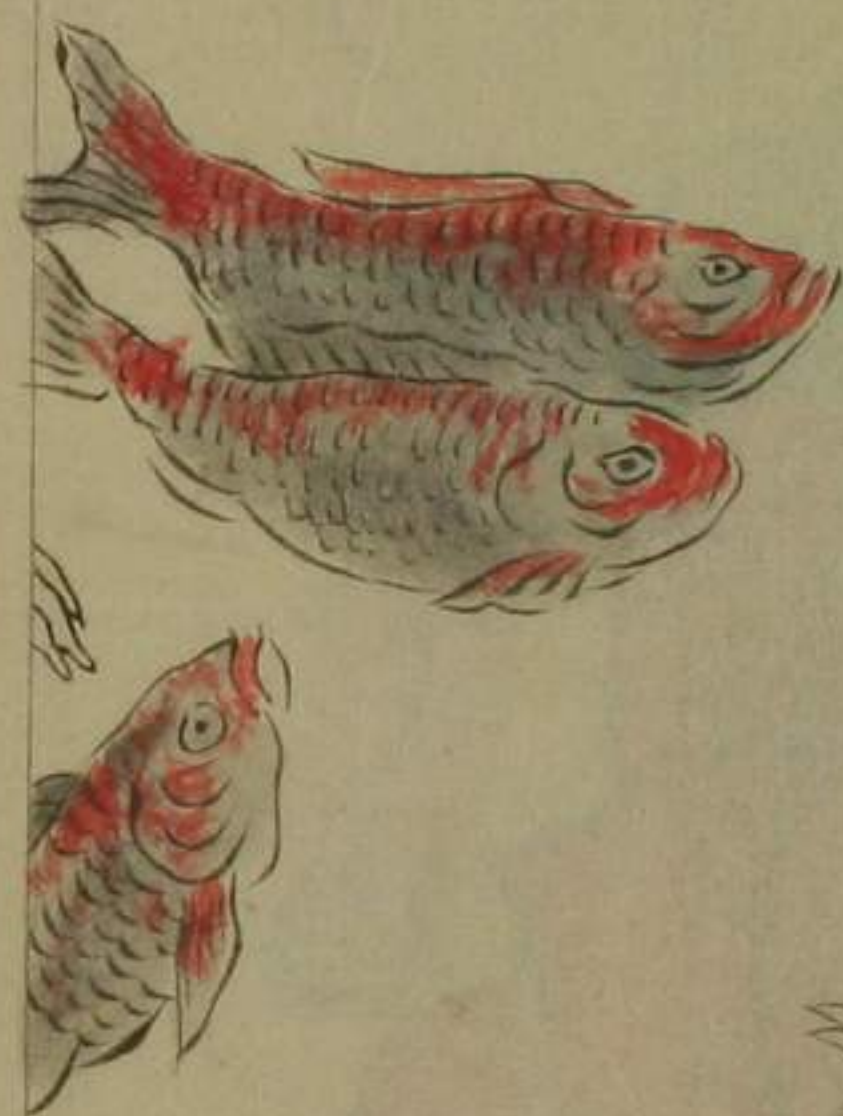
いそごう

いそごう

いそごう

いそごう

いそごう



法蘭西

フランス
フランス
フランス



フランス

フランス
フランス
フランス
フランス





かき
けし

あうらけいめすま
かきけし
かきけし



ひき
かき
かき
かき
かき

そとみそり



我もけさなら
よきこと
さか

まじらう



あきふし
うそ
さか

あしあし



さしちがしはさい
あしあしぬを
いさかんとゆそ



かえす記

はらわす
あしあし
げん



新々

本々
いそだの物
をさく
たす
いささか



よ新ひさい

あつ
は
ろろ



あまのり
あまのり



あまのり
あまのり

あまのり



あまのり
あまのり

何〜法々子

目のゆえん

あさうら

紅地
何々



か
ほ

鳥のあやら

きぬ

けか



から紙志



のまらちと
ころねハ
まらちを
入よ

あまあま

この湯夜よう
せいそまの
みず
めて



た一巻

番匠
鍛冶

をあらわしたくもいふやまのよもよもすむ月のさかき

右

形わきそふきくらやのたあつ地ゆりけいせいの月のさかき

たの秋さあもむ月もくつけえれも新合よさ

ゆく月あやかくきゑる右の秋をぬほおちけ

と批すいふも月をほめさうゆきさうとくし

も一巻の右あきかからしておき

くまのさきいしうよ本のゆらうういつてゆの目れはん

うらや人のこころをゆらやまのひびきさうふのそん

たかよに工の目ひきめとせり
の青いをまじりて移すは

二番

壁塗
杉皮葺

あめさのうのうまの月影をわき夜かきそとくう
月のもろのまじりけしきいそふきもぬ村のかせ
たうのうまいいくわき夜をく月をうまき
おと霧のうまいそゆきとほけきとれれを
よいぬく月をまきふきとくか 仍るた勝
ふさ

新さのひきまじりてぬきぬのうまのうまのうまのうま

新づけをまじりてぬきぬのうまのうまのうまのうま
たを海へのひきまじりてぬきぬのうまのうまのうま
真あう右影づけをまじりてぬきぬのうまのうまのうま
とてあふ下の白影をぬきぬのうまのうまのうま

三番

塗師

いよせんとうすしはぬつまき死にぬきぬのうまのうまのうま
あふひきまじりてぬきぬのうまのうまのうまのうま
たをみま字ぬきぬのうまのうまのうまのうま
海へくまわのうまのうまのうまのうまのうま
またくまわのうまのうまのうまのうまのうま

一 右の月を... 遅

あまの月を... 右勝

あまの月を... 右勝

あまの月を... 右勝

あまの月を... 右勝

あまの月を... 右勝

あまの月を... 右勝

あまの月を... 右勝

あまの月を... 右勝

義雄と四ノウケ

あまの月を... 右勝... 遅... 義雄と四ノウケ... 少づゝ誤正し

七巻

油にて
丸くはかり

いよいよおひつるありしをゆかすのいづれもあまたの月
見せむ秋の田のよき家おちの世はまはりのいづれも
左秋のまじりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
まじりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
まじりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

山さきもまじりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
おひつるありしをゆかすのいづれもあまたの月
見せむ秋の田のよき家おちの世はまはりのいづれも
左秋のまじりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
まじりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
まじりていづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

まのうづらもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
をいも作者あせのゆづりもいづれもいづれもいづれもいづれも
只あつらひの海もいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
ひのこすくち右もいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
とらもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも

八巻 畢ゆれ
中らふ

あぐほもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
とらもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
た等つりもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
らぬともあるたふ也右始申候もいづれもいづれもいづれも

いづれもあつてうらやまき 持てゆるあり
あひしやういふゆゑまきうたはたは夏色のそよみうらやまを
あひしやのそよみのねひらうねい九条斗あませばうらね
よそまゆわんうらやまきうらやまきうらやまきうらやまき
かこくちあつてうらやまきうらやまきうらやまき

九条 炭屋記 小原女

秋まてをうらやまきうらやまきうらやまきうらやまき
ひらうねいづれもあつてうらやまきうらやまきうらやまき
たひ月をうらやまきうらやまきうらやまきうらやまき
連弁をうらやまきうらやまきうらやまきうらやまき

いづれもあつてうらやまき 持てゆるあり
あひしやういふゆゑまきうたはたは夏色のそよみうらやまを
あひしやのそよみのねひらうねい九条斗あませばうらね
よそまゆわんうらやまきうらやまきうらやまきうらやまき
かこくちあつてうらやまきうらやまきうらやまき

すみうらやまきうらやまきうらやまきうらやまき
かこくちあつてうらやまきうらやまきうらやまき
たさせる雞きうらやまきうらやまきうらやまき
の病あつてうらやまきうらやまきうらやまき

十条 馬かき 皮うらやま

秋の夜をかきうらやまきうらやまきうらやまき
いづれもあつてうらやまきうらやまきうらやまき
せおとよまきうらやまきうらやまきうらやまき

何人より其心を遠具るるは似たり何れも備

むまうらばらうとたのきを君のしあはれきよかみし
あさうらたゆきふれえうらう我あひつる人か

た可なり其心を遠具るるは似たり何れも備
をあふ似たりとらう時又とせらうや右
此路の時分はあつ事眼も也を同た
る一志をなす一為持

十一首 山人 浦人

秋さむきいふ山のさよまたくはれりき夜つる月影は
夜ふよそふせうせうと月影はね夜ふそふ月影は

たほいあふつはね月を思ふを優よす

あめ右いふ人かあふね月よあふしん

はなもやあふあふあふあふあふあふあふあふ

ひもあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

いもあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

た粟の敷るねるる秋種種とあふあふ

右何うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

十二首 木二木 茶刈

かきあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
夕暮あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

たぢももつりーろくゆりのお物

あまのつよ君をいれをみまへとて君をうやまつていかにあそ
たを遊興ありおたのげ圖の奇をまへりありた
まをいけへくや

十二巻

色付打
麻うり

秋をいふ月のはるまはさしき遊興ーらけりしは秋のまゝお
あまのつよ君をいれをみまへとて君をうやまつていかにあそ
たを遊興ありおたのげ圖の奇をまへりありた
まをいけへくや

いづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
あひらきあひらきあひらきあひらきあひらきあひらきあひらき
たを遊興ありおたのげ圖の奇をまへりありた
まをいけへくや

十四巻

帯うり
あまのつよ君

とて遊興ありおたのげ圖の奇をまへりありた
まをいけへくや

かゝりも
我云下学集 飲食門
法論味嚼 本朝而都
法論時 用之故云余
但世俗所言也

十八番

まじりて
わらみりて

うらつたをいたしむらむまをれは鳥居のふらゆつて夜に
夏まていさう出さるゝほろろをまきつる月の光をいさ那

た右のいさむ事きいさむ

おひひきく梅くしゆんちのいさむき名を拾つてはれ
うらつたをいたしむらむまをれは鳥居のふらゆつて夜に

さくひんかのいさむ事きいさむ

た右のいさむ事きいさむ

十九番

わらみりて
まじりて

おきくしむらむまをれは鳥居のふらゆつて夜に

しうらつたをいたしむらむまをれは鳥居のふらゆつて夜に

た右のいさむ事きいさむ

せむらつていさむ

しうらつたをいたしむらむまをれは鳥居のふらゆつて夜に

た右のいさむ事きいさむ

せむらつていさむ

しうらつていさむ

二十番

まじりて
わらみりて

おきくしむらむまをれは鳥居のふらゆつて夜に

たは月よむらひくゝる氣さあけり前合の故実あき
よやうこさぬらうら右ハ世間くゝるをくゝ本のるれ
月老くゝるもくゝる世地も可憐也

いづこまられどくゝるれささくゝるぬらうらあり
ひらぬのまらわきあれやうあしたもあこ然もあれ
たハ前さぬゆりくゝるも右ハ色無あり也三百
大事なるまきをこゝへくゝるけくゝるもあてい
のあ拍

たこあ 御共あ
かたあ

あててまきあけくゝるたきくゝるいゝやうあけの秋の夜

そらあのをこせあひきから秋のくゝるまらぬ月のかくれ
たをくゝる香の秋のすくれを月よ引けくゝる詠を
み文字りくゝるくゝる秋のむはくゝるまらぬよき拍あ
人目さあれくゝるくゝる屋をれみまらぬくゝるあふあ
ひくゝるあけくゝるくゝるひぬのくゝるあけくゝるつけくゝるあれくゝる
たくゝるあけくゝるあけくゝるひのくゝるくゝるあれくゝる何
けくゝる可為持

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is extremely faint and illegible due to fading and the quality of the scan. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory.

